

弊社が供給しているガスはLPガスです

- お持ちのガス器具がLPガスに合っているか確認してからご使用ください。
- ガスの種類はガス器具に貼付してある銘板や使用説明書に表示(LPガス用)されています。
- 適合しないガス器具は絶対使用しないでください。



災害時の対策

! 火の始末

火気を使用中に地震がおきたら身の安全を確保し、揺れがおさまったら火を消してください。



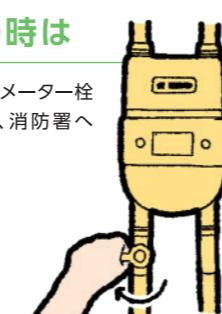
! ガスの元栓を閉める

地震の揺れがおさまったらガス機器の器具栓やガス栓を閉めてください。(二次災害防止のため)



! 火災の時は

屋外にありますガスマーター栓を横に向けて閉め、消防署へご連絡ください。



もしもガスが漏れたら

ガスのニオイがする ガス漏れ警報器が鳴った

1 室内の火は全部消します。

2 ガス栓・器具栓を閉めます。

3 窓や戸を大きく開け、新鮮な空気を入れてガスを追い出します。

4 表紙の連絡先へ連絡し、点検を受けるまではガスを使用しないでください。



! 絶対にしないでください

コンセントや電気のスイッチにさわらないでください。



換気扇は絶対に回さないでください。また、回っている換気扇はそのままにしてください。



とにかくご連絡を!

※休日・夜間にかかわらず緊急の場合は表紙の連絡先へ連絡し、下記の内容をお伝えください。

- ① あなたのお名前
- ② ガス漏れなどの状況
- ③ 電話番号
- ④ ご住所
- ⑤ お近くの目標

こんなときは表紙の連絡先へご連絡ください

●LPガス設備の工事や新しくガス器具を取り付けるとき、または取り外すとき。

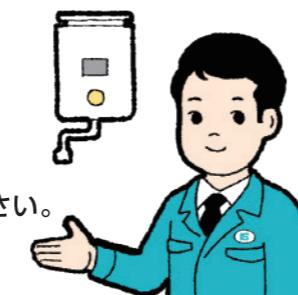
●新築・改築・転居などで新しくLPガスを使うとき、またはやめるとき。

●ガス以外の工事(水道工事・増改築など)を行うとき。

●ガストーブなどの季節的器具で、取り付け・取り外しが困難なとき。

●風呂がま及び大型湯沸器等固定式燃焼器の変更及び修理工事は、自らで行わないでください。

※LPガス配管系統の変更は弊社と十分連絡を取りながら実施してください。



集中団地供給のお客様へ
ご近所でこんな工事を見かけたら
是非お知らせください!

工事がガス漏れの原因になることもあります!

- 掘りおこし、埋め戻し、その他工事の内容によって、埋設してあるガス管をいためたり、異常な重みでガス管が破損してしまう場合があります。
- ガス漏れは、周辺の多数の方々に大変なご迷惑とご不便をおかけすることになります。



保存版 重要なお知らせ

LPガス安全管理マニュアル
ガス小売事業(旧簡易ガス)用
家庭用周知文書

LPガスを ご家庭でご使用の お客様へ

ご家庭の皆さままでご覧ください。

ご存知ですか?
LPガスにはこのような性質があります。

1 空気よりも重い

LPガスは空気よりも重く、漏れると低いところや物かげにたまる性質があります。もしガスが漏れたら、特に下の方の風通しを良くしてガスを屋外に追い出しましょう。

2 ニオイをつけてある

LPガスそのものは無色・無臭ですが、漏れた時に分かるようにタマネギが腐ったようなニオイをつけてあります。

3 燃焼にはたくさんの空気が必要

LPガスが燃焼する為にはたくさんの空気(酸素)が必要です。室内でガスを使用するときは、十分に換気をしてください。

4 クリーンなガス

LPガスは、環境負荷が化石燃料の中でも相対的に小さく、天然ガスとともにクリーンなエネルギーであると位置づけられています。(ただし、換気不足で不完全燃焼を起こすとCO(-一酸化炭素)が発生する危険性があります。)

5 液体になりやすい

LPガスは圧力をかけると容易に液化するので、液化した状態でLPガス容器または、貯槽に入っています。

このパンフレットは、
ガス事業法に基づきお届けする
ものです。

ガス小売事業者
(登録番号 D0073)
住 所
電話番号

緊急時の連絡先

FAX番号

昼間

夜間

換気に充分注意してください

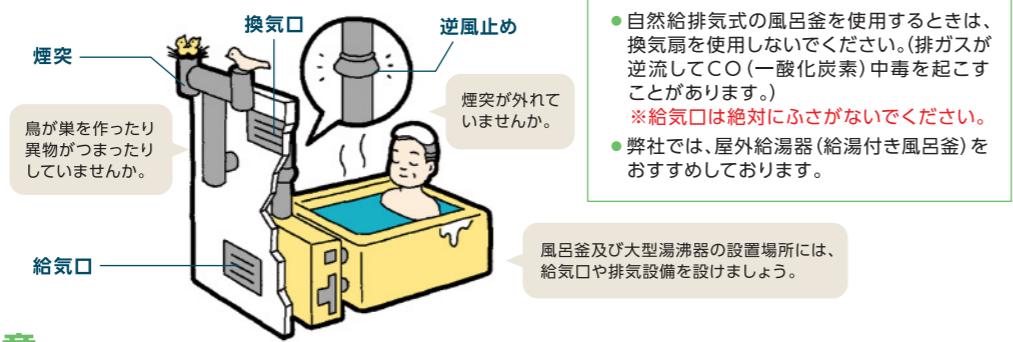


LPガスが燃えるためには、たくさんの空気を必要とします。換気が十分に行われないと、酸素不足や室内に排ガスが充満して不完全燃焼を起こし、有害なCO（一酸化炭素）が発生し、死亡事故に至る恐れがあります。大変危険ですので、十分な換気をしてください。

- ガス器具を使用するときは換気扇を回すか窓を開けたりして必ず換気をしてください。



- 煙突のチェックをしてください。



小型湯沸器のご使用上の注意

- 火が消えたときは、ただちにご使用を中止してください。

一酸化炭素が発生している可能性があります。再点火して繰り返し使用すると、一酸化炭素中毒事故にいたる恐れがあります。

- 小型湯沸器は長時間使用しないでください。安全装置が作動するのは、長時間使用で酸欠状態になったときや、経年劣化による熱交換器の詰まりです。

- ときどき小型湯沸器のフィン(換気部)の目詰まりをチェックしてください。

※フィンの点検などは表紙の連絡先へご相談ください。

金網ストーブをお持ちのお客様へ

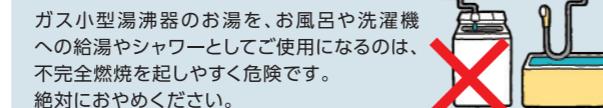
※赤熱面(金網部分)に変形や、やぶれなどの異常がある場合は、不完全燃焼を起こし、一酸化炭素(CO)中毒の原因となる恐れがあります。

※不完全燃焼防止装置付のガスファンヒーターなどへお取り替えください。



- ガス小型湯沸器のお湯を他へ給湯することは危険です。

ガス小型湯沸器のお湯を、お風呂や洗濯機への給湯やシャワーとしてご使用になるのは、不完全燃焼を起しやすく危険です。絶対におやめください。



安心を支えるセイフティ機器

マイコンメーター

ガス漏れなどLPガスの流れに異常があると、ガスマーターに内蔵されたマイコンと遮断弁が働き、ガスを遮断します。マイコンメーターは大きな地震の時、(震度5相当以上)にはガスを止めなど、保安機能がさらに充実しています。弊社ではマイコンメーターの設置を基本としております。

マイコンメーターがガスを遮断した後、自分でできる復帰方法



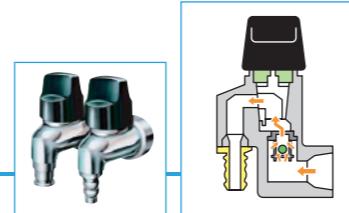
家の中のガス器具をすべて止める。
復帰ボタンのキャップがある場合は、キャップを外す。
復帰ボタンを押して1~2分間待つ。
(押してすぐ、はなす。)

※ガス器具を止めた状態で、復帰ボタンを押した後、ガス漏れがないかどうかをマイコンメーターが1~2分間、安全確認をしています。

異常がなければ、赤いランプ(または液晶のアルファベット)の点滅が消え、ガスは元通りご使用になれます。

※正常に復帰しない場合や、不明な点がある場合は表紙の連絡先へご連絡ください。

ヒューズガス栓



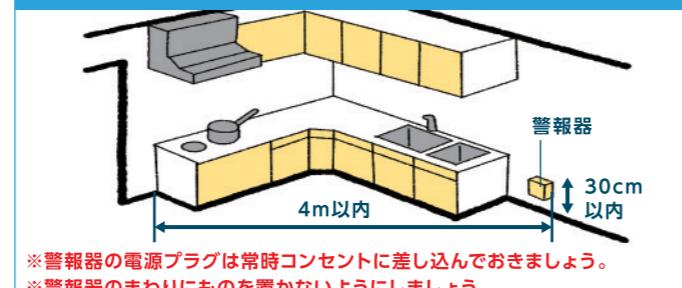
ゴム管が外れて、ガスの流量が多くなると自動的にガスが止まる安全なガス栓です。

ガス漏れ警報器



ガス漏れ警報器があると万が一のガス漏れの際、警報ランプと音声でお知らせしますので安心です。
※有効期限内のものを使用してください。

警報器が適切な位置に設置されているかを確認しましょう

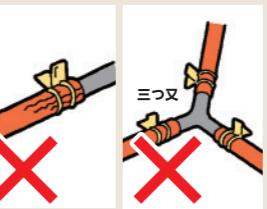


ガス漏れや一酸化炭素(CO)中毒による事故を未然に防ぐためにガス漏れ警報器・CO警報器を設置しましょう。

LPガス事故をなくすために

ゴム管はときどきチェックして、早めに交換しましょう。

- ひび割れの場合は使用しないでください。
- 三つ又は絶対に使わないでください。
- ゴム管のガス漏れ点検は、筆に石鹼水を含ませてゴム管に塗って泡が出るか調べてください。泡が出た場合は、ただちにゴム管を交換してください。



ガス栓は全開で使用し、使用後は完全に閉めてください。

ホースは赤い線まできっちり差し込みホースバンドで止めてください。



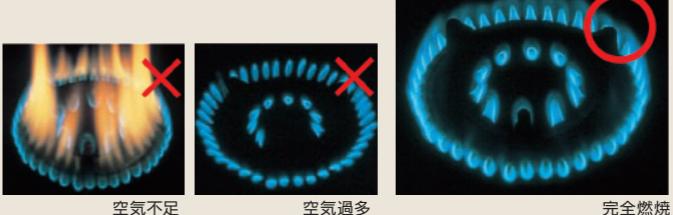
使っていないガス栓は常に閉めておき、ゴムキャップを付け、ホースバンドで止めてください。



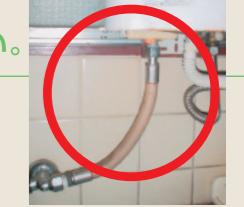
※図はホースバンド使用の例

ガスの炎は青い炎でご使用ください。

赤っぽい炎は、不完全燃焼しています。



固定式燃焼機(ガス器具)はねじ接続用ホースを利用してください。



ガス漏れ防止のため、湯沸器や風呂釜などの固定式燃焼器とガス栓の接続にゴム管を使用することは禁止されています。

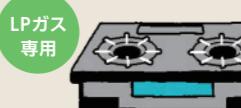
ねじ接続用ホースを利用してください。

ガス器具の手入れ

- ガスコンロの目詰まりは器具ブラシ等で、ときどき掃除してください。
- ネジなどを取外す必要がある場合は、必ず表紙の連絡先へ連絡してください。



LPガス専用の器具をご使用ください。 都市ガスの器具は使用できません。

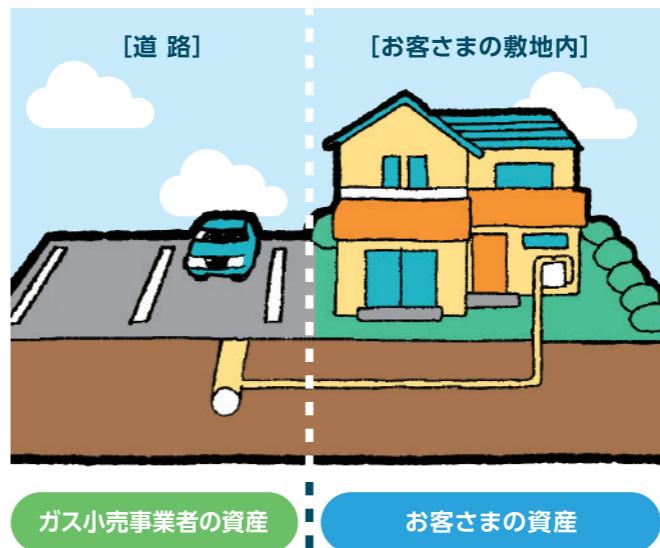


※LPガス専用器具の裏面又は側面に、上記のシールが貼ってありますのでご確認ください。

ガス栓・器具栓はうっかりが禁物

- お休み前やお出かけになるときは、必ずガス栓や器具栓が閉まっていることを確認してください。
- マッチを使用する場合には、マッチに点火後器具栓を開いてください。

日頃の安全点検は、ご自身で行ってください



- 敷地内のガス管は「お客様の大切な資産」です。道路に埋まっているガス管はガス小売事業者の資産です。
- お客様の敷地内に設置してある取引用のガスマーターはガス小売事業者の資産です。

ガス器具の近くに、燃えやすいものは置かないでください。

- 着火時には点火の確認をしてください。
- LPガスの使用中は、その場を離れないようにしてください。風や煮こぼれで火が消えたり、天ぷらを揚げているときに、鍋の中の油に火が着くことがあります。
- ゴム管は、なるべく短くし、折り曲げたり、物かけを通したりしないでください。

1年に1回以上	4年に1回以上
地下室等の配管からのガス漏れ調査など。	配管のガス漏れ調査、ガス機器や給排気設備の調査など、LPガス設備全般についての点検・調査。

私たちアイエスジー株式会社は、
ガス事業法に基づき、
次のような点検・調査を行います。

※点検・調査の結果、改善を指摘された設備については、改善や器具の交換などにご協力ください。